

項 目	環境保全を重視した施策の展開	NO	1-2
-----	----------------	----	-----

事業名	森林資源循環利用促進事業		
事業費	37,700 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目 的

間伐で発生する低質材を合板等やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出への支援。

2 事業概要

①合板等利用促進事業

間伐により発生した木材のうち低質で通常の市場取引が困難な木材について、合板やチップ等の原料として工場に出荷した場合、一定額を助成する。
(県外搬出：600円/m³、県内搬出：400円/m³)

②バイオマス燃料利用促進事業

間伐により発生した木材のうち低質で通常の市場取引が困難な木材について、燃料用ペレットや燃料用チップの原料として工場に出荷した場合、2,300円/m³を助成する。

- ・ 平成26年度実績

合板等利用促進事業	28,575 m ³
(計画)	38,000 m ³
バイオマス燃料利用促進事業	9,767 m ³
(計画)	12,000 m ³
合計	38,342 m ³
(計画)	50,000 m ³

3 成果と課題

【成果】

- ・ 県外搬出では、合板工場の受け入れ制限等のため、計画数量を下まわった。
- ・ 県内搬出では、集成材用ラミナ材を加工工場や、土木用資材加工工場、チップ工場など多様な用途への搬出支援を実施した。

【課題・対応】

合板等や燃料用チップ及びペレットなど、新たな用途へ利用を促進してきたが、今後、県内で大型集成材工場やバイオマス発電などの新たな需要先が整備されるため、多様な利用に向けて制度を構築する必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み

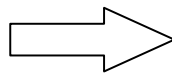
【平成 26 年度森林資源循環利用促進事業の取組み事例】

「森林資源循環利用促進事業」

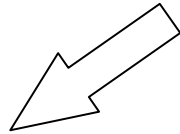
間伐に伴い発生する低質材を、合板用材等やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出等に対し支援を行う。



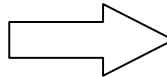
伐木造材
(本事業対象外)



林内からの
木材運搬



トラック運搬



工場搬入



用途ごとに加工工場に運搬



合板工場



ラミナ材加工工場



バイオマス燃料加工工場

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-3
事業名	低質材利活用システムの検証・検討		
事業費	5,184 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

間伐で発生する低質材等の搬出・利用システム全般について検証・検討し、低コストシステムを構築する。

2 事業概要

間伐等で発生する低質材について、今後再生エネルギー利用などの需要の増加が見込まれる。そのため、素材生産の現状を調査し、低質材の利活用における課題の分析・整理を行い、効率的かつ安定的に低質材の供給が可能な低コストシステムの構築に向けた支援のあり方について検証・検討を行う。

・平成26年度実績

- ①村山と置賜地域の素材生産業者及び製材業者を対象とした調査の実施
- ②平成25年度調査結果と合わせた2カ年の調査結果のとりまとめとシステム構築に向けた支援のあり方の検討

3 成果と課題

【成果】

平成25年度に実施した調査結果と合わせ、地域ごと及び県全体の林業の現状と課題を把握し、低質材の供給に関するシステム構築に向けた支援のあり方の検討を行った。

その結果、平成25年度に搬出支援単価の見直しを行い、平成26年度には**実際の**需要に合わせて**搬出支援の対象出荷先**を見直した。

【課題と対応】

本業務の調査結果を受けて、今後も低質材の持続的かつ安定的な供給を可能とする仕組み作りを構築していく。

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-4
事業名	広葉樹林健全化促進事業		
事業費	5,680 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- ① ナラ枯れ被害の拡大防止
- ② 広葉樹林の更新（若返り）
- ③ 森林資源の有効活用

2 事業概要

ナラ林を主体とする広葉樹林の小規模皆伐（おおむね5ha以下）を実施する森林所有者、森林組合、素材生産業者等に対し、伐採搬出経費や大量集積型おとり丸太の設置経費（合成集合フェロモンの誘引効果による面的防除）の一部を助成する。

3 成果と課題

【成果】

- ① 伐採搬出経費への支援：6,212m³（計画：9,000m³）
- ② 大量集積型おとり丸太の設置 支援：1箇所（計画：5箇所）

【課題と対応】

- ① ナラ枯れ被害の拡大を防止するため、今後も継続して取り組む必要がある。
- ② 面的防除を推進するため、大量集積型おとり丸太設置の呼びかけを強化していく必要がある。



伐採作業と集材・搬出の状況



森林資源の有効活用

「大量集積型おとり丸太」実施状況

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-5
事業名	ナラ枯れ被害対策検証事業		
事業費	299 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- ・面的防除対策の実施
合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法を実施する。

2 事業概要

- ・面的防除対策の実施
合成集合フェロモン（誘引剤）を用いたカシノナガキクイムシの大量捕殺手法によるカシノナガキクイムシの誘引効果と被害軽減効果を検証を行なう。

- ・平成26年度実績

合成集合フェロモン設置 7箇所
(計画5箇所)

3 成果と課題 専門家による検討会開催「ナラ枯れ被害拡大防止対策検討委員会」
【成果】 1月20日開催

合成集合フェロモンを活用した面的防除手法「大量集積型おとり丸太」の効果の検証と被害軽減に向けた検討を行った。

【課題・対応】

合成集合フェロモンを活用した面的防除手法「大量集積型おとり丸太」については、引き続き効果を検証するとともに、広葉樹林健全化促進事業と連携し、この手法の定着と改良を図る。

合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法

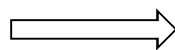
【おとり木トラップ】



事前に殺菌剤を樹幹に注入



- ①誘引剤として幹にエタノールを設置し、カイロモンを発生(木にドリルで穿孔)させる
- ②合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引
- ③カシノナガキクイムシの誘引状況確認のため粘着バンドを設置



被害地2箇所で
約1万頭/0.1haを誘殺
★被害を1/10に削減

※伐採を前提とした林分では殺菌剤を注入しない、誘引伐採木も実施

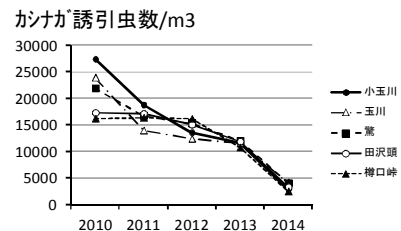
【おとり丸太トラップ】



丸太を20m3以上に大量集積



丸太に合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引



激害時から同一箇所に大量集積型おとり丸太を5年設置 4年目1万頭/m3, 5年目3千頭/m3

★ カシナガの密度を減らすには4~5年設置